

# 図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2020年  
1月号  
No. 14

**明けましておめでとうございます** 岸和田市図書館友の会 会長 松谷 敬一

令和2年の子年を迎えました。昨年は米中貿易戦争が紛糾拡大し、全世界経済に色々な減速課題を投げかけました。一方、国内では台風15号・19号被害と消費税引き上げでさらに経済が下押しされ、何となく意気の上がない一年でした。

しかし10月、令和改元の儀から祝賀ムードが盛り上がり、暗雲を払う機運が高まったような気がしています。

私たちはその機会をプラスにすべく前向きに明るく振舞い、今年一年を有意義に過ごしてゆきたいと思います。本年は各教室が取り組んだ市民公開講座を定着・拡大するためにがんばる所存です。皆さんの明るく前向きな行動力でより多くの仲間が増え、より楽しい年中行事企画が実現できることを期待しています。今年も一年、健康で楽しく過ごしましょう。



## 俳句教室、文章教室 公開講座のお知らせ

### 【文章教室】2月15日（土）午後1時～4時

- 私たちのグループは、倉橋健一先生のご指導のもと、身のまわりのこと、自分や家族のこと、あるいは親しい友人のことなどを、自分たちのやり方で、上手い下手を乗り越えて「なんでも書こう」ということで集まっています。
- そこで、関心のある方、私たちと一緒に書いてみませんか。
- どんなことをやっているのか、そのままお見せします。ぜひお気軽においでください。

### 【俳句教室】3月26日（木）午後1時～4時

- 私たちのグループは、中出乙淡先生のご指導のもと、俳句歴数十年の人から数ヶ月の人まで、常に十数名が和気あいあいと俳句作りを楽しんでいます。
- 俳句作りを通して、知らなかった「ことば」に出会えたり、大和言葉の美しさに感動したり・・・
- ぜひ、作品3句を持ち寄って、句会をはじめましょう!!（1句でもOKですよ）  
兼題は、「あたたか」「すみれ」または、自由です。

どちらの公開講座も場所・定員等は以下の通りです。

場所 岸和田市立図書館本館 3階 視聴覚室（スリッパ持参）  
定員 10名（申込み先着順） 《参加費》無料  
申込み 岸和田市立図書館に直接、または電話で ☎072-422-2142

## 「再発見教室」の公開講座 『山岡尹方と岸和田煉瓦』

### 最新の研究成果の話に感嘆、大好評!!

昨年12月25日、山岡邦章さん(岸和田市郷土文化課文化財担当長)を講師に迎え、「山岡尹方と岸和田煉瓦」と題した公開講座を開きました。講座には37名が参加、岸和田煉瓦を考古学の立場から研究された興味深い話に、参加者一同「なるほど…」と何度もうなずきながら聞き入り、大変好評でした。

話の内容は、明治時代に作られた岸和田煉瓦の特徴を示しながら、それが江戸時代末に奄美大島で作られていた煉瓦と深い関係があることなど、山岡邦章さんの最新の研究成果。初めて聞く話に、参加者からは次々に質問が出され、それに対しても丁寧に答えられました。以下、参加者の感想の一部を紹介します。

- 岸和田煉瓦のルーツと働きを、考古学の分野から壮大なお話を聞かせていただき、とても興味を持って聞き入りました。知らないことが多くてだんだん引き込まれて聞き入った感じがします。
- 岸和田煉瓦が、奄美で作られた煉瓦が基本となっていたことがわかった。
- なるほど!でした。誰もあまり知らない煉瓦の建物、その歴史が重要です。
- 郷土文化室の文化財担当職員がお一人と聞いてびっくりしました。たくさんの遺品を管理し守ってもらうためにも、もっと職員を増やしてほしい。

#### 「再発見教室」の連続公開講座

#### 相馬九方と土屋鳳洲

講師 下村 欣司 氏(地域史研究家)

「再発見教室」では、岸和田の幕末・維新の時代に活躍した相馬九方と土屋鳳洲を取り上げ、連続講座を開催する予定です。

《第1回》 相馬九方 3月29日(日)

《第2回》 土屋鳳洲 5月27日(水)

場所 岸和田市桜台市民センター3階

時間 午後2時～4時

※詳しくは、チラシ等でお知らせします。

### 盛況だった図書館まつり



昨年十一月に開催された図書館まつりは盛況。一昨年は図書館まつりがなかったため、「友の会」が担当した古本リサイクル市の会場には、大量の書籍でいっぱい。準備は大変でしたが、ボランティアの方々にも手伝っていただき、大助かり。当日は、例年以上に多くの人が訪れ、終了時まで来客は途絶えませんでした。みなさん、ご協力ありがとうございました。

## 「食生活教室」公開講座

# 岸和田発 にんじん<sup>あやほまれ</sup>彩誉

岸和田でタネが開発された甘～いニンジン<sup>あやほまれ</sup>彩誉。ニンジン独特の癖がなく、ニンジン嫌いな子供も喜んで食べると評判。彩誉を使った各種商品も開発されています。

講師 鳥居<sup>とりい</sup> 敬史<sup>たかし</sup> 氏（彩誉ブランド化実行委員会会長）

かなざわ けいすけ 氏（彩誉会会長、4Hクラブ会長）

彩誉を使った各種商品の内容や、彩誉ブランド委員会の取組み内容、にんじん栽培の工夫・苦労話、おいしく食べる調理方法など話していただきます。

日時 3月1日（日）午後2時～4時

場所 岸和田市立図書館本館3階視聴覚室

定員 30名（申し込み先着順） 参加費 無料

※ 図書館に直接または電話でお申し込みください。☎ 072-422-2142

## 地名の秘密 ⑬ 「膳所（ぜぜ）」

### 膳所（ぜぜ） 宮廷に食料を提供するところだった

その昔、琵琶湖沿いに位置する大津には天智天皇の大津宮＝しがのみやこがあり、琵琶湖でとれた魚などが宮廷の食膳に供された。

そこで、大津の浜、つまり膳所は御物浜（おものはま）と呼ばれるようになったという。御物（おも）とは天皇や貴人の召し上がりものを言う。『拾遺和歌集（しゅういわかしゅう）』に「とどこはる時もあらじな近江なる、おももの浜のあまのひつぎは」という歌が収録されている。

現在訳にすると、滞（とどこお）るような時がまったくあるまい、近江にあるおももの浜の海人（あま）が毎日奉（たてまつ）る貢物は、という意味である。オモノノハマのオモノに「陪膳」の字をあてることもある。ぜぜとなった理由は次のようなものだ。

最初、膳所と書いてオモノと読んでいたが、後にこの地のことを「膳」を重ねて「膳々（ぜんぜん）」と呼ぶようになった。それがなまってぜぜになり、膳所と書いてぜぜと読むようになった。そのほか、ゼンショ（膳所）がなまってぜぜになったという説がある。この地に、源頼朝より先に平家を破って京都に進出した木曾源義仲が、頼朝と争って討死した地としても知られて「義仲寺」という寺に祀られている。元禄2年（1689）俳人松尾芭蕉が義仲寺を愛し、草庵で年を越しており、遺言によって、義仲寺の墓地に埋葬されている。

※参考資料 『日本全国・地名の秘密』北嶋廣敏著 【文責】文章教室 浦田榮二

## 図書館友の会「文学歴史散歩」

### 「飛鳥資料館」と「万葉館」で、歴史と文学を堪能

秋晴れ、紅葉のきれいな飛鳥に24名で行き、「飛鳥資料館」と「万葉文化館」で歴史と文学を堪能してきました。

まず、「飛鳥資料館」ではパワーポイントを使って展示説明員から約40分間資料館展示物全体の概要（展示物が飛鳥地区全体のパノラマともなっている）と、今年8月10日に現地説明会のあった「飛鳥京跡苑池(えんち)」の説明がされ、「北池」と「南池」の現地説明会での資料もいただきました。その後、館内や庭園で各人が興味のある展示物を楽しむ時間を過ごせ、私は飛鳥に残る奇石遺跡の意味を改めて考えさせられました。

次に、「万葉文化館」では2班に分かれて【富本銭】発掘現場や【令和】に因んだ『万葉集』の説明を聞いた後、館内の食堂で明日香野菜カレーに舌鼓を打ちました。その後、広い館内や近辺の飛鳥地区の自由散策時間を満喫し、山上憶良が時を超えて語りかけてくる飛鳥の秋を後にしました。

来年も11月に「文学歴史散歩」を計画予定ですので、今年参加できなかった皆さまのご参加をお待ちしています。



#### 参加者の感想

(山田和彦)

朝から雲ひとつない青空、晩秋の一日、悠久のロマンを感じながら過ごさせていただきました。飛鳥資料館では、高松塚・キトラ両古墳、山田寺廃寺等の遺物を、その時代の最先端科学技術の粋を集めて保存された姿を見せられて感動を覚えさせられました。また古墳の分厚い壁に穴を開け盗掘した人々の情熱と執念に驚かされました。飛鳥京跡苑池の大規模な敷石には、権力者の力とそれに使役させられた民の力の差を感じさせられました。

万葉文化館では「令和」の参考文献のもととなった文章・人間味あふれる恋の歌に触れてホッと、庭に出て散歩すれば1400年前から残る道路の遺構、少し遠くを見れば甘樫丘をのぞみ、眼を転じれば現代の家並みが見え、人々の営みが垣間見れる不思議な感覚を覚える一日でした。

